

第 43 回 中国地区英語教育学会 研究発表大会

日 時： 平成 24 年 6 月 23 日（土）13:00～16:30

会 場： 広島大学教育学部
〒739-8524 広島県東広島市鏡山一丁目 1 番 1 号
<http://www.hiroshima-u.ac.jp/index-j.html>

大会事務局

〒739-8524 広島県東広島市鏡山 1 丁目 1 番 1 号
広島大学 教育学部 柳瀬陽介 研究室内
Phone: 082-424-6794 Fax: 082-424-5244
E-mail: yosuke@hiroshima-u.ac.jp

| | |
|--------------|------------------------------|
| 12:00～ | 受付開始（教育学部正面玄関） |
| (12:00～12:30 | 理事のみ： 理事会（教育学部 2 階第 2 会議室）) |
| 13:00～13:30 | 総 会（教育学部 K 棟 2 階 203 講義室） |
| 13:40～16:30 | 自由研究発表（教育学部 K 棟の 1 階と 2 階） |
| 17:00～19:00 | 懇親会（広島大学生協北 1 レストラン 会費：4 千円） |

【自由研究発表】 13:40～16:30

(紙幅の都合でこの表にはメインタイトルだけを表示しています。発表者氏名と所属およびサブタイトルを含んだタイトルについては、次ページ以降を御覧ください)

| | 第1室 K104 リーディング 系 (小~高) | 第2室 K108 リーディング 系 (高専~大) | 第3室 K114 ライティング 系 | 第4室 K116 統合的アプ ローチ等 | 第5室 K203 文学・言語学 系 | 第6室 K215 動機づけ系 |
|---------------------|--|---|--|---|---|---|
| 13:40 ~ 14:10 | 英語の絵本の 読み聞かせと 小中連携 | 九州地区国立 大学英語入試 問題における 文法事項の頻 出度および問 われ方の直接 性・間接性 | 英語学術論文 における一人 称代名詞 'I' の使用 | 英語ディベ ート導入によ るツールとし ての英語力 育成に関する 実践と課題 | 英文法学習 及び指導に おける例文 のあり方に 関する調査 研究 | 英語学習に おける動機 づけと社会 的比較との 関係 |
| 14:15 ~ 14:45 | 高等学校での リーディング指 導はどうなりま すか? | 読解指導にグ ラフィック・オ ーガナイザー を用いた効果 について | 近年の一貫 性 (coherence) 概念の検討 とディスコー スコミュニティ | コミュニケー ション・モデ ルの再検討 から考える英 語教師の成 長 | 教育学的観 点からみた 法助動詞 can と may | 英語教師に よる発想の 転換 (3) |
| 14:50 ~ 15:20 | 国連持続可能 な開発のため の教育の 10 年における「グ ローバル社会 を生きる力」に 関する考察 | 日本人英語学 習者に対する リーディング指 導の一研究 | 中学校英語科 における思考 力・判断力・表 現力を育む授 業の創造 | 新中学校検 定教科書入 門期レッス ンにおける 円滑な小・ 中接続のため の教科書 構成分析 | 教科書に見 る概念メタフ ァー | 外国語活動 において児 童の性格・動 機づけが学 習行動・学習 意欲に与え る影響 |
| 15:25 ~ 15:55 | 日本語と英語 の比較言語学 的分析に基づ く英文和訳規 則の導入と英 文和訳能力向 上面での効果 | リーディング・ ストラテジーの 明示的教授: 速読トレー ニングの効果と 検証 | テキスト内容を 英語で再構成 する力とテキ スト内容想起 度の関連性 | 日本語と英 語における 日本人児童 の音韻的短 期記憶容量 に関する研 究 | 中学校レベ ルにおける アウトプ ット能力養成 をめざした Large Grammar 活動 | コミュニテ ィー移動と L2 学習の動 機づけ変化 |
| 16:00 ~ 16:30 | | | 日本人高校生 が書いた英語 依頼メールに 対する英語教 員志望大学生 と英語母語話 者の丁寧度判 断の違い | 理科の教科 内容を生か した中学校 の英語指導 法 | HAVE の教 育文法 | 動機づけを高 める研究 |

第1室 (K104) リーディング系 (小~高)

| | 発表タイトル・発表者 | 発表要旨 |
|---------------------|--|--|
| 13:40 ~ 14:10 | 英語の絵本の読み聞かせと小中連携 又野 陽子 (山口市立平川中学校) | 小中連携を視野に入れた小学校での英語の絵本の読み聞かせの授業実践を報告するとともに、教材内容の口頭導入、文の機能、言語材料、読み書きの指導、タスク活動、学習ストラテジーといった視点から中学校外国語教育との接続について考察を行う |
| 14:15 ~ 14:45 | 高等学校でのリーディング指導はどうなりますか？ 宮迫 靖静 (岡山県立岡山操山高等学校) | 「リーディング」科目消滅後の高等学校におけるリーディング指導に関して、Grabe (2009)の提言を基に、(a)現行・新学習指導要領を比較し、(b)「コミュニケーション英語 I」の教科書を例示し、考察する。 |
| 14:50 ~ 15:20 | 国連持続可能な開発のための教育の10年における「グローバル社会を生きる力」に関する考察 ~「言語活動の充実」を支えるブッククラブの実践をとおして~ 本田 浩子 (日本学校図書館学会・日本ブッククラブ協会) | 国連持続可能な開発のための教育の10年において、広島県立忠海高等学校における「グローバル社会を生きる力」とは何かを明らかにするため、新しい学習指導要領の「言語活動の充実」の観点より、ブッククラブを位置付けた実践を通じた考察を進めた。 |
| 15:25 ~ 15:55 | 日本語と英語の比較言語学的分析に基づく英文和訳規則の導入と英文和訳能力向上面での効果 森本 寛次 (森本 EL) | 日本語と英語の文構造共通点「文修飾部 文主部 文述部」並びに「各文構成部分内における同様の文構造の多層的維持」と両言語の文構造相違点「各文構成部分内におけるほぼ逆になる単語配列順序」とを組み合わせることにより、「文修飾部 文主部 文述部、前から主語、主語、…訳し後戻り」(比較言語学的英文和訳規則森本ルール)という規則的な英文和訳の手順が導き出されます。この英文和訳規則を導入した英文和訳演習の具体例と英語学習者の英文和訳能力向上面での効果に関して発表します。 |

第2室 (K108) リーディング系 (高専~大)

| | 発表タイトル・発表者 | 発表要旨 |
|---------------------|---|--|
| 13:40 ~ 14:10 | 九州地区国立大学英語入試問題における文法事項の頻出度および問われ方の直接性・間接性 後藤 駿介 (広島大学大学院) | 大学英語入試は、高等学校における英語教育と不可分な関係に置かれている。本研究においては、2001年から2011年までの九州地区における国立大学の大学入試問題を精査し、その出題特徴および時系列的变化を分析した。 |
| 14:15 ~ 14:45 | 読解指導にグラフィック・オーガナイザーを用いた効果について 吉留 文男 (大島商船高等専門学校) | 高等専門学校生(71名)を対象に2ヵ月にわたってグラフィック・オーガナイザー(GO)を用いた読解指導を試み、談話構造のグラフィック・オーガナイザーを利用した読解指導が学習者の読解にどのような効果を及ぼすかを検証する。 |
| 14:50 ~ 15:20 | 日本人英語学習者に対するリーディング指導の一研究 —チャンク法を採用して— 中嶋多美子 (元・広島大学大学院) | 本研究は大学生・院生を対象に①チャンク法のみ、②チャンク法+その他 prosody, の2種の音読訓練を対照実施することにより、音読の速さ・質・内容理解の効果を比較し、韻律を踏まえた音読法の可能性を測ることを目的とする。 |
| 15:25 ~ 15:55 | リーディング・ストラテジーの明示的教授: 速読トレーニングの効果と検証 瀧 由紀子 (松山大学) | リーディング・ストラテジーの明示的教授が速読訓練に効果があるのかを検証するために、大学の英語の授業で4か月間大学1年生27人にストラテジーを教え、その速読効果と学生のフィードバックを調査した。 |

第3室 (K114) ライティング系

| | 発表タイトル・発表者 | 発表要旨 |
|---------------------|--|--|
| 13:40 ～ 14:10 | 英語学術論文における一人称代名詞 'I' の使用 榎川 敬子 (広島大学大学院) | 書き言葉の中の一人名は、書き手の主張等に関わる重要な役割を有している。本研究ではライティング指導のための資料を提供することを目的とし、学術論文からコーパスを構築し、'I' 使用の文脈を分類的に叙述した。 |
| 14:15 ～ 14:45 | 近年の一貫性 (coherence) 概念の検討とディスコースコミュニティ 佐藤 龍一 (広島大学大学院) | 一貫性 (coherence) に関しては様々な概念が散在している。本研究では、近年の一貫性に関する概念の研究をディスコースコミュニティとの関連を考慮しながらまとめる。そして英語教育における一貫性の指導について示唆をする。 |
| 14:50 ～ 15:20 | 中学校英語科における思考力・判断力・表現力を育む授業の創造 - Writing における言語活動の充実をめざして - 大牛 英則 (鳴門教育大学附属中学校) 兼重 昇 (広島大学) | 中学校英語科における言語活動を通して、思考力・判断力・表現力を育むにはどのような授業が求められているのか。本発表では平成23年度中学1年生の英語授業を通して writing の表現力を高めることを目指した実践を紹介したいと考える。 |
| 15:25 ～ 15:55 | テキスト内容を英語で再構成する力とテキスト内容想起度の関連性 浅井 智雄 (広島県立広島皆実高等学校) | 英語で再構成化された英文の質を、Cloze-T と Dictation により測定されたテキスト内容想起度と比較検討することにより、高校レベルの平均的な英語学力の学習者に、読んだ内容を英語でまとめさせるための指導方法と内容を探った。 |
| 16:00 ～ 16:30 | 日本人高校生が書いた英語依頼メールに対する英語教員志望大学生と英語母語話者の丁寧度判断の違い 澤井 優希 (広島大学大学院) | 本研究の目的は、日本人高校3年生 (36名) が「ALT に英作文の添削を依頼する」という設定で書いた英語依頼メールに対する英語教員志望大学生と英語母語話者 (各 10名) による丁寧度判断の違いを明らかにすることである。 |

第4室 (K116) 統合的アプローチ等

| | 発表タイトル・発表者 | 発表要旨 |
|---------------------|--|---|
| 13:40 ～ 14:10 | 英語ディベート導入によるツールとしての英語力育成に関する実践と課題 問田 雅美 (清心女子高等学校) | 英語ディベートはさまざまな技能を統合して行う活動であり、ツールとしての英語力向上が期待され、高等学校の授業に取り入れる動きが加速している。ディベート導入の実践と課題について報告する。 |
| 14:15 ～ 14:45 | コミュニケーション・モデルの再検討から考える英語教師の成長 柳瀬 陽介 (広島大学) | コミュニケーションの出来事モデルを導入し、情報伝達モデルの近代的な限界を指摘し、英語教師の成長は、からだを持った複数人間が創発させるコミュニケーションによると主張する。 |
| 14:50 ～ 15:20 | 新中学校検定教科書入門期レッスンにおける円滑な小・中接続のための教科書構成分析 立花 千尋 (近大姫路大学) | 平成23年度、必修となった小学校外国語活動と平成24年度から新学習指導要領に基づいて開始される中学校英語との円滑な小・中接続のために、文部科学省検定済みの新中学英語教材における1年生入門期レッスンがどのように構成されているか、また、小学校外国語活動で用いられていた「英語ノート」から何をどのように反映させ、小・中の接続を図ろうとしているかについて教科書分析を行った。 |

| | | |
|---------------------|---|--|
| 15:25 ～ 15:55 | 日本語と英語における日本人児童の音韻的短期記憶容量に関する研究 梅本 咲恵 (広島大学大学院) | 本研究は、日本語と英語における日本人児童の音韻的短期記憶容量に関係性がみられるかどうかを明らかにすることで、外国語活動での音韻面の指導に有効な示唆を与えることを目的とする。 |
| 16:00 ～ 16:30 | 理科の教科内容を生かした中学校の英語指導法 —「英語を学ぶ」から「英語で学ぶ」へ— 二五 義博 (海上保安大学校) | 本発表では、部分イメージ校の授業例を参考にしながら、英語の授業に理科の教科内容を取り入れることが興味・関心、理解、コミュニケーション能力育成、4技能の統合的指導などの視点でいかに効果的であるか、多重知能を活用する学習者中心の指導にいかに関結びつくかを明らかにする。 |

第5室 (K203) 文法・言語学系

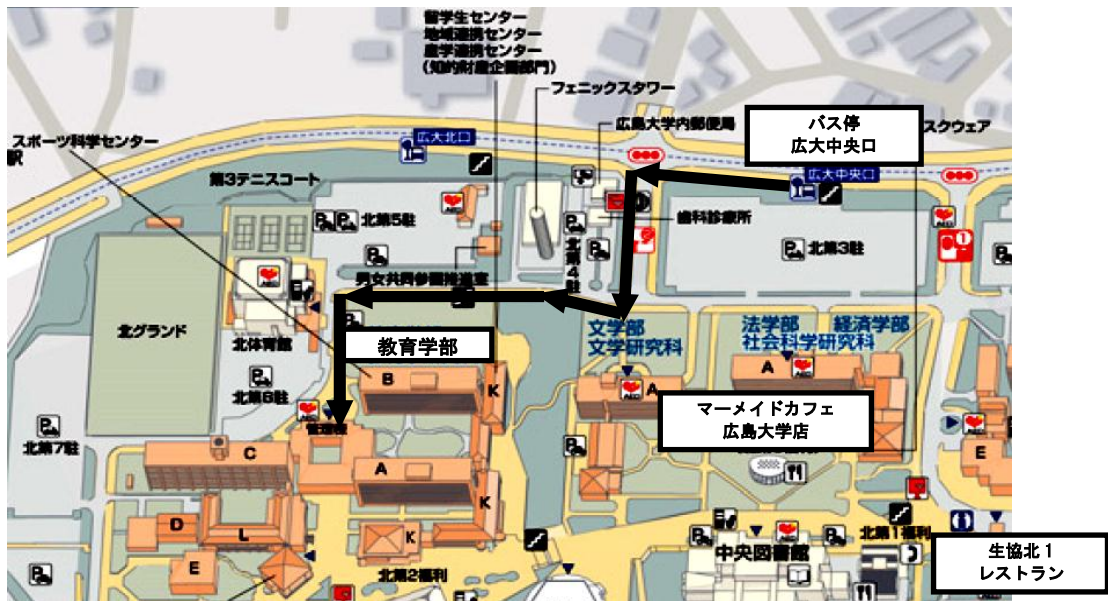
| | 発表タイトル・発表者 | 発表要旨 |
|---------------------|--|---|
| 13:40 ～ 14:10 | 英文法学習及び指導における例文のあり方に関する調査研究 中住 幸治 (広島大学大学院・山口県立岩国高校) | 本研究の主な目的は、学習者（中国地方の公立高等学校2年生）及び教員（中国地方の公立高等学校英語教員）の、英文法学習及び指導における例文への意識を多角的に検証することである。 |
| 14:15 ～ 14:45 | 教育学的観点からみた法助動詞 can と may 高野 櫻子 (広島大学大学院) | 法助動詞は、コミュニケーションにおいて自分の心的態度を表現する際、また話している相手のそれを理解する際に、不可欠な文法項目である。本発表では曖昧性の生じやすい can と may の二つの法助動詞を考察し、実際の授業への基礎データとしたい。 |
| 14:50 ～ 15:20 | 教科書に見る概念メタファー —機能語の教育文法を考える— 加美田 祐也 (広島大学大学院) | 英語教科書における up や down などの方向性を表す不変化詞を、認知言語学の知見（概念メタファー）とコーパス言語学の手法を組み合わせ考察し、不変化詞がどのように扱われているかを明らかにする。 |
| 15:25 ～ 15:55 | 中学校レベルにおけるアウトプット能力養成をめざした Large Grammar 活動 — 中学校での試行と筆記による Expansion 活動のデータ分析 — 足立 和美 (鳥取大学) | 中学校での Large Grammar 活動の様子と、特に Expansion 活動で得られた結果を述べ、この活動を繰り返すことにより語彙の知識がアウトプット活動に適応したものへと質的に変化する様子が認められることを指摘し、その変化を「活性化」と「Verb化」の観点から論じる。 |
| 16:00 ～ 16:30 | HAVE の教育文法：多義ネットワークの構築 脇坂 友望 (広島大学大学院) | 本発表では、HAVE の意味・構文の発達過程と各々の関連性を視覚化した、HAVE の多義ネットワークを提案する。HAVE のコアを形成する2要因、「何かを HAVE 空間に持っている」の「何か」と「持ち方」の違いに留意し作成した。 |

第6室 (K203) 動機づけ系

| | 発表タイトル・発表者 | 発表要旨 |
|---------------------|--|---|
| 13:40 ～ 14:10 | 英語学習における動機づけと社会的比較との関係 藤居 真路 (広島大学大学院・広島県立神辺高校) | 英語学習への自信は、時間上、過去（成功経験）と現在（才能自信）と将来（成功予測）に分類できる。これらの自信は、社会的比較（上方比較と下方比較）とどのような関係にあるのだろうか。この関係について、高校1年生を対象に質問紙調査を行った結果を報告する。 |
| 14:15 ～ 14:45 | 英語教師による発想の転換(3) — 英語学習に対する needs 育成支援について 吉川 正美 (香川県立坂出商業高等学校) | 本発表の目的は、英語学習に対する潜在的なニーズを掘り起こし学習動機を高める指導方法を検討することである。2専門教育学科の生徒を対象とした調査結果を分析し、英語学習者としての特性を比較解釈しながら考察を行う。 |

| | | |
|---------------------|--|---|
| 14:50 ～ 15:20 | 外国語活動において児童の性格・ 動機づけが学習行動・学習意欲に 与える影響 野村 遥子 (広島大学大学院) | 本研究では、小学校児童の性格と動機づけが学習行動 と学習意欲に与える影響を検討した。総じて国語より 外国語において低動機付けをもつ児童の意欲や行動 が促進されている一方で、「外向性」の高い児童は、 外国語の方が積極的に行動しているものの意欲は低 いことが示された。 |
| 15:25 ～ 15:55 | コミュニティー移動と L2 学習の動 機づけ変化 —オーストラリアと日 本の事例研究— 柳原 里枝子 (比治山大学) | L2 学習者が目標言語コミュニティへ移動する際の 動機づけ変化を、L2 セルフシステム(Dörnyei, 2009) の視点から再考する。その概観から、動機づけには目 標言語の特質や使用の必要性が大きく関わることを 述べる。 |
| 16:00 ～ 16:30 | 動機づけを高める研究：量的・質的 アプローチ 田中博晃 (広島国際大学) | 本発表では自己決定理論を取り入れた動機づけを高 める方略を作成し、その効果を検証する 1 連の研究結 果を提示する。その際に量的研究と質的研究の両方の 特性を活かすことで、よりダイナミックに動機づけを 捉えることを目指す。 |

会場案内図



お知らせとお願い

- (1) 宿泊については、お手数ですが各自でご手配ください。
 - (2) 広島大学東広島キャンパスへのアクセスは広島大学ホームページ・交通アクセス・地図をご参照ください
(<http://www.hiroshima-u.ac.jp/top/access/higashihiroshima/>)。
なお、広島大学東広島キャンパスは、土日に関しては、入構制限が解除されております。お車でお越しの方は、ゲートをくぐってキャンパス内のいずれかの駐車場をご利用下さい。
 - (3) 参加申込の締切は過ぎましたが、当日参加も受け付けております。なお、会員でない方は、当日会費（3,000円）を、受付でお支払いください。
 - (4) 昼食は、広島大学生協北1食堂（大学本部近く）と西2食堂（総合科学部）が営業しています（11:00～14:00）。
 - (5) 研究発表をなさる方は以下の点にご留意ください。
 - ・発表時間は20分、質疑応答は10分とします。
 - ・計時係を各室に配置し、20分で1鈴、30分終了で2鈴鳴らします。
 - ・司会者は依頼しておりませんので、質疑応答は発表者で行って下さい。
 - ・発表資料については、50部程度ご用意いただき、発表の直前に配布してください。
- ※ 発表会場は発表内容ごとに分け、発表順序は発表タイトルの五十音順に並べることを大まかな原則としました。ご理解とご協力をお願いします。